



文字を書くことは子供のころのいつから始めたのだろうか。文字を読むことはそれなりにできて、書くことは難しい。日本語の場合、ひらがな、カタカナ、漢字があり、英数字も文章の中に入れてくることもある。文字の種類を見ても、諸外国より多いと感じる。それぞれを覚えるだけでも難しいのに、正しい書き順で、読む人に優しいといつか、きれいに書くことすると、大変な訓練が必要となる。自分自身も小学校くらいまでであるつか、書道塾に通った。どうも上手になれず、何かの理由でやめてしまった。そのためか、出前講義をした折に子供たちからきれいな文字の手紙を頂くと、何とも言えないうれしさがある。

では、日本全体を見たとき、愛媛県

文字・文章を書く

構 成 力 と 速 度 重 要 に

の子供たちの文字はどうなのか。ここ数年、出前講義の感想文、レポートをたくさん頂き、それを書いた一人一人の子供たちに返事を書いている。その時、とても読みやすい文字、学年に見

渡辺 正夫



東北大大学院
生命科学研究所教授

あろう。これからも継続されてほしいと思う。

同じように文字を書くと言っても、最近ではパソコンに向かってキーボードをたたいて文章を書き、文字の大きさなどを調整し、プリンターで出力することが多い。こうなると、文字を手で書いたときにきれいなかどうかと言う問題を超越してしまうが、明らかに利点もある。キーボードを見ないで入力する「タッチタイピング(ブラインドタッチ)」を習得した時の入力の高速度であろう。訓練により1分間に200タッチ以上できれば、頭の中で

合わないきれいな文字に出くわすことがある。日本のどの地方かはさておき、今治周辺で講義をしたとき、返事をもらう手紙の文字が比較的きれいなことに気がつく。これが小さな子供時代からのさまざまな積み重ねの成果なので

思考を途切らせることなく、スムーズに文章を書くことができ、長文を短時間で書く訓練も可能になる。しかしながら、パソコンで高速タイピングができたからといって、必ずしも文章構成力が身に付くわけではな

ふるさと伝言

い。説得力のある論理的な文章を書くためには、より多くの文章を書く機会が不可欠である。実際、東北大で私が世話人を務める理科好き高校生向け企画「科学者の卵養成講座」では、講義を聴いた後、30分程度でA4判裏表のレポートを書くことを課題としている。レポート書きが10回を超える1年間の講座修了時には、文章構成力が鍛えられ、かなりの受講生が説得力のある文章を短時間で書くことができる。これも積み重ねの成果であろう。

日本で文章を書くというと、国語、文系と思われがちかもしれないが、理系でも文章力は必須である。大学にいるから、論文・申請書を書くために必要と考えられるかもしれない。ところがそのようなことはなく、どのような組織でも、説得力ある文章を論理的に書くことは不可欠である。こんな世の中であるからこそ、美しい文字を書くのと同様に、論理的に構成のきれいな文章を短時間で書く重要性をいま一度考えてはいかがなものだろうか。(わたなべ・まさお、今治市生まれ)